

2年度 学校だより 11月号 10月30日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 石田 薫

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子



読書の秋

校長 石田 薫

先日、朝会で世界食糧計画というチームが今年度のノーベル平和賞を受賞した話に絡めて、『食欲の秋』の話をしました。秋は様々な活動に適した季節で、スポーツの秋・芸術の秋など様々ありますが、読書の秋の歴史は長く千年以上だそうです。

中国の唐の時代の文人・韓愈^{かんげ}が学問をすることの大切さを詠んだ詩『府読書城南』の中にこんな一節があります。

時秋^{ときあき}にして積雨^{せきう}はれ 新涼^{しんりょう}郊墟^{こうきょ}に入る^{いる} 燈火^{とうか}稍親^{しやくしん}しむ可^べく 簡編^{かんぺん}卷舒^{けんじよ}す可^べし

(秋になり長雨も上がって新鮮な涼しい気が、城外の家々にも入り込むようになった。夜には灯にも親しめるようになったので、書物を紐解くこともできるだろう。の意)

『秋は涼しくなって、灯の下で読書するには適している。』ことから読書の秋となったそうです。

読書の効果は、知識が増える・読解力がつく・語彙が増える・脳の活性化・ストレス解消等々数えきれないほどあります。しかし、読書するときに読解力をつけるために読書をしようとか語彙を増やすためにしようという子は少ないと思います。やはり楽しいから、面白いから読書しようと思うのです。ただ、文字を読むことが苦手な子もいますので、読み聞かせや簡単な絵本等から読むなど、その子に応じた取り組みが良いと思っております。

10月27日から11月9日が読書週間です。毎年、保護者ボランティアのお力を借りて趣向を凝らした『はまっ子読書の日』を計画しておりましたが、本年度は、学校司書を中心に校内で工夫して取り組んでまいります。コロナ禍で、若者の読書量が24%増えたという調査結果もありました。読書の秋を機会に多くの子が、たくさん本と出会えると良いなと思っております。今月もよろしく申し上げます。